

介助用 NAH-UC 電動シリーズ

取扱説明書

NAH-UC・Lo電動 / NAH-UC・Hi電動

この度は、製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。
なお、保証書も掲載しておりますので、大切に保管してください。

目次はP30に掲載しております



PHOTO/NAH-UC・Hi 電動

各部の名称



出荷時は運送時の安全のために、手押しハンドルを前方に、フットサポートを外側に回転して収納されている場合があります。

手押しハンドルの戻し方についてはP3を、フットサポートの戻し方についてはP17をご覧ください。



NAH-UC・L 電動 仕様

- 全長: 111cm(111cm) ●全幅: 54cm(54cm) ●全高: 101~124cm(72cm)
- シート幅<アームサポートパイプ内々>: 40cm ●ヒップスペース有効幅: 40cm
- シート奥行: 36cm※最奥部は40cm ●前座高<ティルト操作角0°時>: 40cm
- 後座高<ティルト操作角0°時>: 38.5cm ●バックサポート高: 48cm
- アームサポート高: 3・18・20・22・24・26・28cm
<アームサポート前端部では1・16・18・20・22・24・26cm>
- ヘッドサポート高: 63~86cm ●キャスト: 6インチPU ●主輪: 12インチ
- ティルト角度: 0~30° ●リクライニング角度: 0~30° ●重量: 20.8kg

※以上の値は座クッション未装着時のものです。()は折りたたみ時寸法。

- 座クッション 厚さ: 5cm 全長: 45cm 重量: 0.7kg
- 耐荷重: 100kg(積載物を含む)

NAH-UC・Hi 電動 仕様

- 全長: 113cm(113cm) ●全幅: 56cm(56cm) ●全高: 111~134cm(77cm)
- シート幅<アームサポートパイプ内々>: 42cm ●ヒップスペース有効幅: 42cm
- シート奥行: 38cm※最奥部は42cm ●前座高<ティルト操作角0°時>: 45cm
- 後座高<ティルト操作角0°時>: 43.5cm ●バックサポート高: 53cm
- アームサポート高: 3・18・20・22・24・26・28・30・32cm
<アームサポート前端部では1・16・18・20・22・24・26・28・30cm>
- ヘッドサポート高: 68~91cm ●キャスト: 6インチPU ●主輪: 12インチ
- ティルト角度: 0~30° ●リクライニング角度: 0~30° ●重量: 21.3kg

※以上の値は座クッション未装着時のものです。()は折りたたみ時寸法。

- 座クッション 厚さ: 5cm 全長: 45cm 重量: 0.8kg
- 耐荷重: 120kg(積載物を含む)

付属サービス工具

新車購入時には、下記のサービス工具が製品に付属されています。

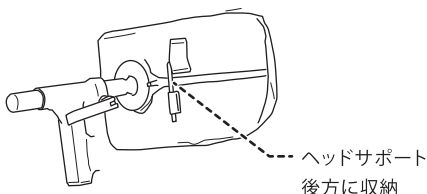
工具袋内に収納

■ 5mm六角レンチ×1本

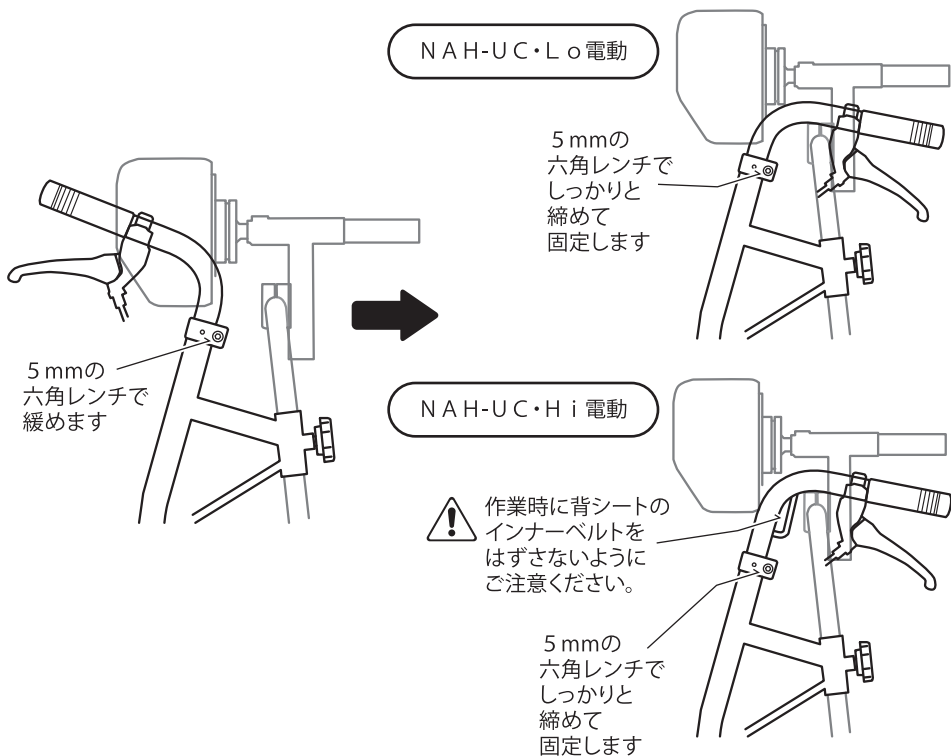


ヘッドサポート後部に収納

■ 4mm六角レンチ×1本



手押しハンドルの戻しかた(新車購入時に実施してください)



出荷時は左右の手押しハンドルを、前方もしくは内側に回転して収納してある場合があります。手押しハンドルを固定しているクランプのボルトを5mmの六角レンチで緩めて、手押しハンドルを後方に回転させ、手押しハンドルの高さ(下図参照)を確認調節してから、クランプのボルトをしっかり締めて固定してください。



ティルト角度とリクライニング角度を最も起こした状態で、床面から手押しハンドルグリップの後端上面までの左図で示した高さ以下になるように、手押しハンドルの高さを調節してください

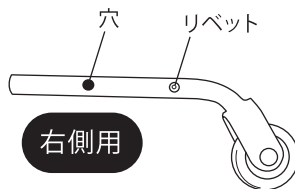
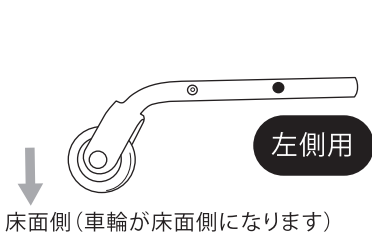


手押しハンドルの高さが左図を超えた状態で使用をすると、ワイヤーの破損や誤作動につながるおそれがあります。

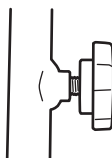
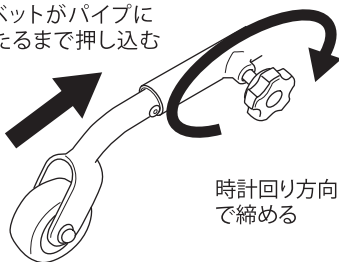
転倒防止装置について

■ 取り付けかた

転倒防止装置は右側用と左側用があります。パイプに穴があいていて、リベットが見えている側が車いすの内側を向きます。



リベットがパイプに
当たるまで押し込む



ノブボルトがまわらなくなるまでしっかりと締めてください。

転倒防止装置を、ティッピングレバーにしっかりと差し込んでノブボルトを時計回り方向に締めて固定します。右側用・左側用とも確実に取付けてください。



**注意
警告**

- 転倒防止バーをティッピングレバーとして使用しないでください。(転倒防止バーを足で踏まないでください。)
- 転倒防止バーを持って車いすを持ち上げないでください。
- 製品の使用前には、転倒防止装置が左右とも確実に固定されていて、抜けたり回ったりしないことを確認してください。
- 製品を使用の際は、かならず左右両方に転倒防止装置を設置してください。
- 転倒防止装置は転倒をしにくくする効果がありますが、転倒を完全に防止するものではありませんのでご注意ください。

ヘッドサポートフレームの外しかた・取り付けかた・高さ調整のしかた



●ヘッドサポート
固定用ノブボルト



外しかた

ヘッドサポートフレームを固定している、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトを緩めると、ヘッドサポートフレームを上引き抜いて外すことができます。

取り付けかた

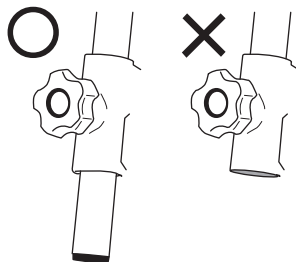
ヘッドサポートフレームを左右のヘッドサポート固定用ノブボルトがついているパイプの上から差し込み、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトをしっかりと締め、固定してください。(しっかりと固定され、ヘッドサポートフレームを引き上げても抜けないことを確認してください。)

高さ調整のしかた

ヘッドサポートフレームを固定している、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトを緩めると、ヘッドサポートフレームの高さを上下に調整することができます。調整後は、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトをしっかりと締め、固定してください。(しっかりと固定され、ヘッドサポートフレームを引き上げても抜けないことを確認してください。)



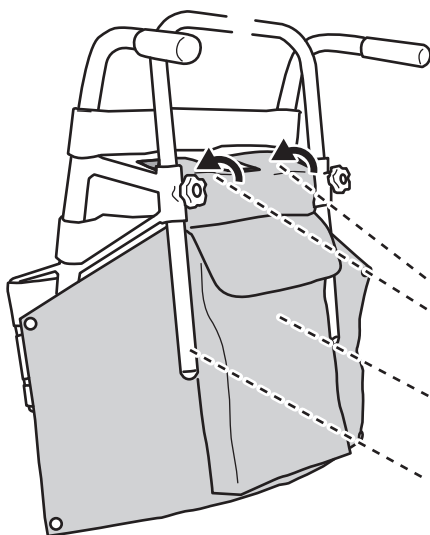
ヘッドサポートフレームが、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトがついているパイプの下から出ている状態で製品を使用してください。ヘッドサポートフレームが右図のパイプの下から出ていない状態で使用すると、製品の破損や事故につながるおそれがあります。



禁止 ヘッドサポートを取りつけない状態での使用はしないでください。

バックサポートアウターシートの取り付けかた

- 1 背ポケットのついたシートを取りつけます。



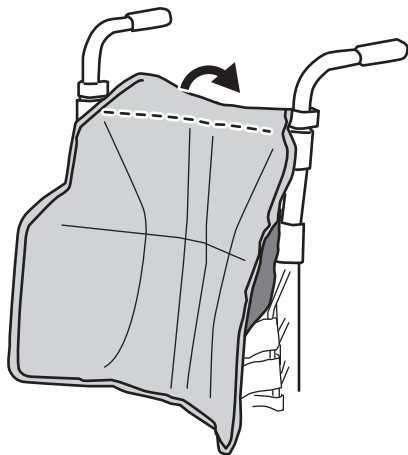
左右をつないでいるパイプを巻き込むように折り曲げて、しっかりと面ファスナーを貼り合わせてとめます。

シリンダー部品が背面から見えなくなるようにシートをかぶせます

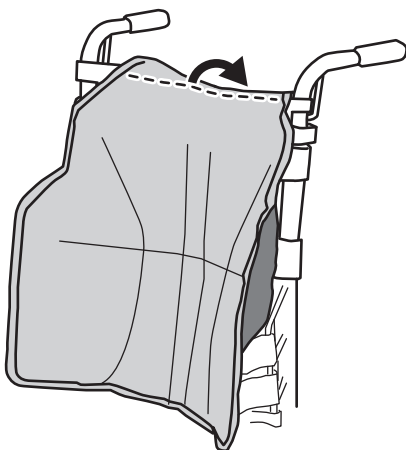
ヘッドサポートフレームが背面から見えるようにシートを取りつけます。

- 2 背前側用のシートを取りつけます。

NAH-UC・L 電動



NAH-UC・Hi 電動



背アウターシートの上部を背インナーシートの上端で折り曲げて、面ファスナーでインナーシートの裏側にしっかりと貼り合わせてとめます。

- 3** 背前側のアウターシートと背ポケットのついたシートをホックボタンでとめて
つなぎます。(4か所をホックボタンでとめます)



ホックボタン
(右側2か所・左側2か所の
計4か所)



注意

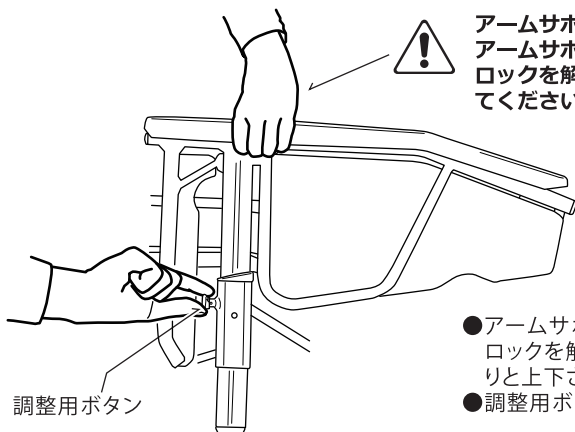
- ・面ファスナーはしっかりと確実に貼り合わせてください。
- ・ホックボタンは確実にとめてください。



禁止

バックサポートアウターシートを取りつけない状態での使用はしないでください。

アームサポート高の調整のしかた

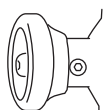


アームサポートが落ちないように、アームサポートを手で持ちながらロックを解除して調整をおこなってください。

調整用ボタン

- アームサポートを持ち、調整用ボタンを引いて、ロックを解除し、アームサポートの高さをゆっくりと上下させ、高さを調整します。
- 調整用ボタンがロックされれば調整は完了です。

調整用ボタン



ロック解除状態

ボタンが外側に引っ張り出された状態で保持された状態



ロック状態

ボタンが本体内側に引きこまれている状態



注意
警告

- ・手指等を挟まないように注意してください。
- ・調整はアームサポートが落ちないようにアームサポートを持ちながらおこなってください。アームサポートから手を離してロックを解除すると、落ちたアームサポートとフレームで手指や身体をはさんでケガをするおそれがあります。
- ・調整後はアームサポートが調整用ボタンでしっかりと固定されていることを確認してください。



アームサポートは、移乗や折りたたみのために座面と同じ高さまで下げることができます。



アームサポート高を座面と同じ高さまで下げたときは、調整ボタンによるロックはされません。



注意
警告

アームサポートが落ちないように、アームサポートを手で持ちながらロックを解除してアームサポートを下げてください。アームサポートから手を離してロックを解除すると、落ちたアームサポートとフレームで手指や身体をはさんでケガをするおそれがあります。

車いすの広げかた

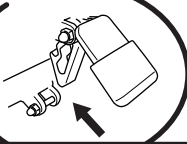
1



手押しハンドルを持って、バックサポートフレームをゆっくりと起こします。



注意



フレームのドッキング部分(上図矢印部)に配線コードを挟まないように注意してください。

2



バックサポートフレームがしっかりと固定されて倒れないことを確認してください。

車いすの折りたたみかた

1



左右のアームサポートを座面と同じ高さまで下ろします。(P 8 参照)

2



●背折りたたみレバー

背折りたたみレバーを手で引き上げるとバックサポートフレームのロックが解除されます。

3



手押しハンドルを持って、バックサポートフレームをゆっくりと倒します。

4



バックサポートフレームを倒しきったら折りたたみ完了です。

駐車ブレーキのかけかた



足踏み駐車ブレーキペダルを足で踏むことでブレーキがかかります。
解除する場合は操作レバーを足で跳ね上げてください。
駐車ブレーキは、左右連動式です。左右どちらかのペダルを操作することで、左右の後輪とも同時にロックと解除がされます。



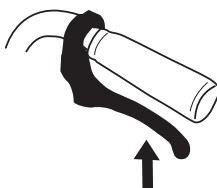
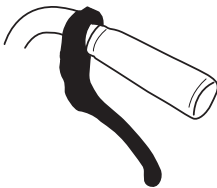
注意
警告

- ・しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- ・坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- ・ペダルに体重をあずけるなど、ペダルに強い力がかかる行為はしないでください。
- ・駐車ブレーキをかけた状態で車いす本体を無理に押したり引いたりしないでください。

介助ブレーキのかけかた



● 介助ブレーキレバー



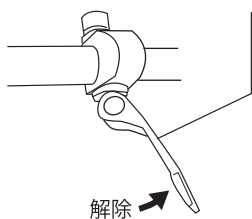
左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。



介助ブレーキは、駐車ブレーキとして使用することはできません。駐車目的では使用しないでください。

ヘッドサポート前後位置の調整のしかた

ヘッドサポート前後位置調整用カムレバー



- ヘッドサポート前後位置調整用カムレバーを解除して、任意の前後位置にヘッドサポートを調整します。調整したら、左右のカムレバーを締めてください。(しっかりと固定されたことを確認してください。) 締付けの強さはレバーの反対側のネジで調整してください。



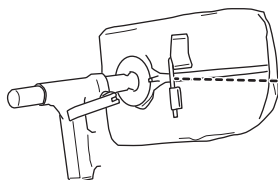
ヘッドサポートは、前後位置調整レバーのついているパイプの後端からインナーパイプが出ている位置で使用してください。後端からインナーパイプが出ていない状態での使用をすると、製品の破損のおそれがあります。



ヘッドサポートの角度・方向の調節のしかた



- 上図のボルトを4mmの六角レンチで緩めると、ヘッドサポートの左右位置や角度を調整することができます。調整したら、緩めたボルトをしっかりと締めてください。(ヘッドサポートがしっかりと固定されたことを確認してください。)



新車購入時、4mm六角レンチ(サービス工具)はヘッドサポート後方に収納されています。

ティルト・リクライニングの操作方法

背・座角度調整コントローラー



コントローラーを使用しないときは、
コントローラーをアームサポート下の
赤色のベルトにひっかけておいてください。

■ティルトのしかた

コントローラーの「座 おこす」または「座 たおす」ボタンを指で押し、止めたい位置でボタンから指を離せば止まります。

■リクライニングのしかた

コントローラーの「背 おこす」または「背 たおす」ボタンを指で押し、止めたい位置でボタンから指を離せば止まります。

■「背 座 たおす」ボタンを指で押すと、背と座が同時に傾きます。
ボタンから指を離せば止まります。

ティルト



ティルト&リクライニング



 **注意
警告**

- ティルト及びリクライニング操作は必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ティルト及びリクライニングを大きく倒した状態から起こす際には、角度を一度に大きくもどさず、少しずつ起こし、休憩をはさみながら起こしてください。
急に大きく角度を起こすと、自身の血圧が低下し、体調に悪影響を及ぼす可能性があります。

- ティルト操作時に、自身の足を外側に出していると、アームサポートと座フレームで足をはさんでケガをするおそれがあります。足が座面から横に出ていることを確認して操作を行ってください。



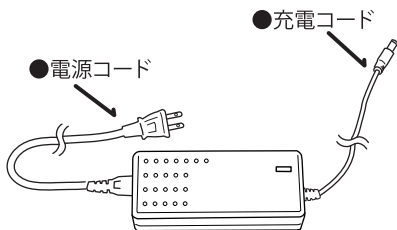
- ティルトを起こすと、キャスト上部とフレームの間が狭くなります。手指や身体を挟んでケガをするおそれがあります。この部分に手指や身体の一部をいれないでください。



危険 手指・身体を入れない

- ティルト及びリクライニング操作をする際は、車いすの前方、後方に物が無いことを確認し、操作してください。
- ティルト・リクライニングの操作中に、無線・携帯電話等の使用をしたり、理学療法士の治療を受けるなどしないでください。
- 機器の故障や誤作動のおそれがありますので、水のかかるところや、濡れた手で使用したり、コントローラーを改造したりしないでください。
- 誤作動のおそれがありますので、磁石など磁力の強力なものをコントローラーに近づけないでください。
- ティルト及びリクライニング操作は長時間連続で行わないでください。

充電アダプターの説明



充電アダプター仕様

PSE適合品

電源：100～240V 50/60Hz

標準充電時間：3～6時間程度

※初回の充電は6時間以上かかる場合があります。

■電源コード

家庭用コンセントに差し込みます。
(AC100～240V 50/60Hz対応)

■充電コード

車いすの充電口に差し込みます。



警告

感電のおそれがあります。濡れたプラグや、濡れた手で充電しないでください。
つぎのような場所では充電しないでください。

- 雨露を受ける場所
- 湿気の多い場所

充電アダプターの分解や改造は、故障や火災の原因となりますので絶対にしないでください。

充電のしかた

1. 充電アダプターの電源コードを家庭用コンセントに差し込み、充電コード先端プラグを車いすの充電口にしっかりと差し込んでください。

●充電口



2. 充電が開始されると、充電アダプターのランプが赤色で点灯します。
3. バッテリーが満充電になると、充電アダプターのランプは緑色に点灯します。
満充電になったら(アダプターのランプが緑色に点灯したら)、できるだけ早く、充電アダプターの電源コードをコンセントから抜き、充電コード先端充電口から抜いて、充電を完了してください。

再充電が必要な場合

バッテリー残量が少なくなると、ティルト・リクライニング動作の速度が通常より遅くなります。その場合は、できるだけすみやかに、使用を中止し、充電を行ってください。それでも充電を行わず、さらに残量が減ると、バッテリーボックスから警報音(10～20秒間)でお知らせします。

充電についての注意事項



注意

- 購入後、初めてご使用になる前には、必ず満充電になるまで充電をしてください。
- 必ず専用の充電アダプターをご使用ください。
- 充電中は、ティルト及びリクライニングの操作をしないでください。
- 雷時は、直ちに充電を中止し、電源コードのプラグを家庭用コンセントから抜いてください。
- 充電時間は、バッテリーの放電状態によって異なります。
(標準充電時間 3～6時間 ※初回の充電は6時間以上かかる場合があります。)
- 長期間ご使用にならない場合でも3か月に一度は充電してください。
- 冬場など気温が低い場所(0℃以下)では充電することができません。0℃以上(4.5℃以下)の風通しの良い室内で充電してください。
- 夏場など気温が高い場所で使用した直後のバッテリーは高温になりますので、充電の前に適温まで自然に冷ましてください。
- 各所コネクタが正しく差し込まれていないと充電できません。充電コードは、充電口にしっかりと差し込んでください。
- バッテリーボックスや充電器に衝撃を与えたり、落とさないでください。
- 充電アダプターやバッテリーボックスの上に物を置かないでください。
- 充電中は、充電器やバッテリーボックスが高温になることがあります。触れないようにしてください。
- 充電が終了しましたら、なるべくお早めに充電コードを抜いて、充電を終了してください。
充電コードを接続したままにすると、バッテリーの寿命が短くなることがあります。
- 充電アダプターの電源コードや充電コードは、必ずプラグ部分を持って引き抜いてください。
コード部分を持ちますと断線の原因になります。
- 充電口には金属製のものを近づけないようにしてください。また、異物がある場合には、取り除いてください。

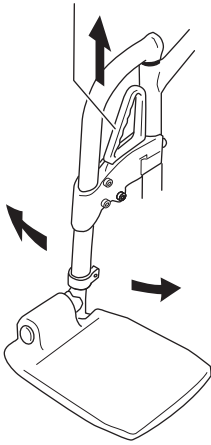
バッテリーの仕様

バッテリーはバッテリーボックスに内蔵されています。
バッテリーボックスの交換が必要な場合は、販売店までご用命ください。

種類	(セルタイプ式)リチウム
充電環境温度	0～45℃
電圧	最大30V
電流	最大1.5A
標準充電時間	3～6時間(※初回充電時除く)
満充電での使用回数	ティルト・リクライニング同時操作 最大 約200回
PSE	PSE適合品

フット・レッグサポート(標準仕様)の開閉のしかた・着脱のしかた

スイングイン・アウト用レバー

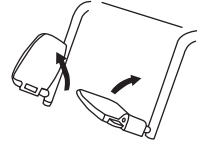


開閉のしかた・はずしかた

※搭乗者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

- スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートを内側・外側へ回転させることで、フット・レッグサポートの開閉(スイングイン&スイングアウト)ができます。

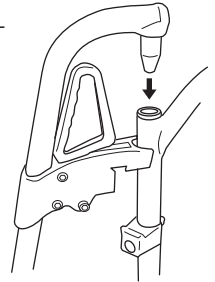
※フットサポートプレートがあたって、内側に回転できない場合は、フットサポートプレートを跳ね上げてから操作をしてください。



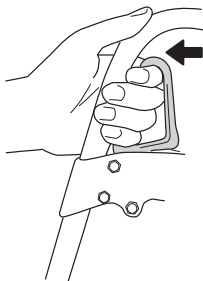
- スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートを上方に引き上げると、フット・レッグサポートを本体からはずすことができます。

取り付けかた

- ①フット・レッグサポートを外側に開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。

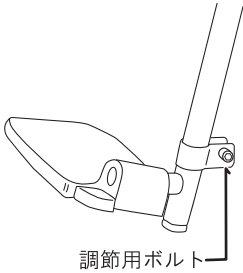


- ②スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートがまっすぐになる位置まで、内側に回転させてください。
- ③フット・レッグサポートがまっすぐな正しい位置になったら、レバーから手を離してください。レバーが戻り、フット・レッグサポートがフレームに固定されていることを確認してください。(フット・レッグサポートが左右に動いたり、上方に抜けたりしないことを確認してください。)



フット・レッグサポートの開閉・着脱操作は、フット・レッグサポートレバーを握りながら行います。

フットサポートの調節のしかた



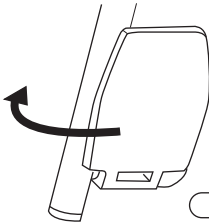
フットサポート高調節用ボルト
締め付けトルク 6 ~ 7 Nm

- フットサポートプレートの上にある、調節用ボルトを4mmの6角レンチで緩めて、フットサポートの高さを合わせてから、調節用ボルトをしっかり締め付けます。
(極端に強く締めすぎると、締付けクランプ部品が破損する場合がありますのでご注意ください。)



注意

- ・調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。(極端に強く締めすぎると、締付けクランプが破損する場合がありますので注意下さい。)
- ・フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部で、地面から5cm以上あげてください。
- ・調節用ボルトが完全に緩んでいない状態で無理にフットサポートを動かさないでください。ポストにキズがつき、調節がしにくくなる場合があります。
- ・フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。

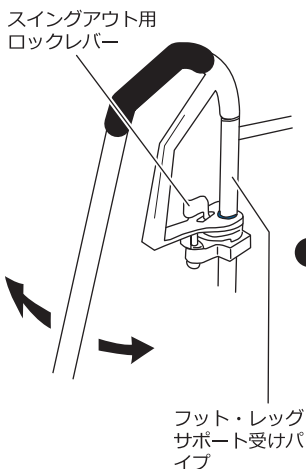


出荷時

出荷時はフットサポートを、外側後方に回転して収納してある場合があります。上記説明の通りに調節用ボルトを緩めて、フットサポートプレートを前方に回転させ、高さを調節してから、調節用ボルトをしっかり閉めて固定してください。

拳上式フット・レッグサポート(オプション)の開きかた・着脱のしかた

開きかた・はずしかた



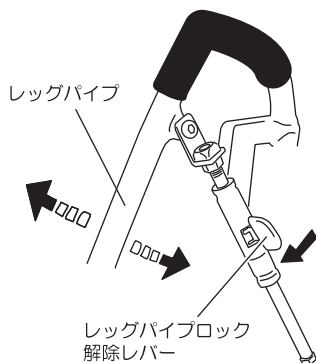
※乗車者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

- ①スイングアウト用ロックレバーを外側へ押しながら、フット・レッグサポートを外側に開きます。
- ②フット・レッグサポートを外側へ45°程度回転させると、フット・レッグサポートを上方に引き抜いて外すことができます。

取り付けかた

- ①フット・レッグサポートを外側に45°程度開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。
- ②フット・レッグサポートを「カチッ」と音がするまで、内側に向けて回転させてください。

拳上式フット・レッグサポート(オプション)の拳上のしかた・下げかた



拳上のしかた(上げかた)・下げかた

レッグパイプを片方の手でしっかり持ちながら、もう片方の手で、レッグパイブロック解除レバーを下へ倒します。そのままレッグパイプの角度を任意に調整し、レバーから手を離して角度を固定します。

拳上式フット・レッグサポート(オプション)の各部の調節のしかた

フットサポートプレート高さの調節のしかた

フットサポートプレートの高さの調整方法は、標準仕様のフット・レッグサポートと同じです。調整方法につきましてはP17をご覧ください。

レッグパッド位置の調節のしかた

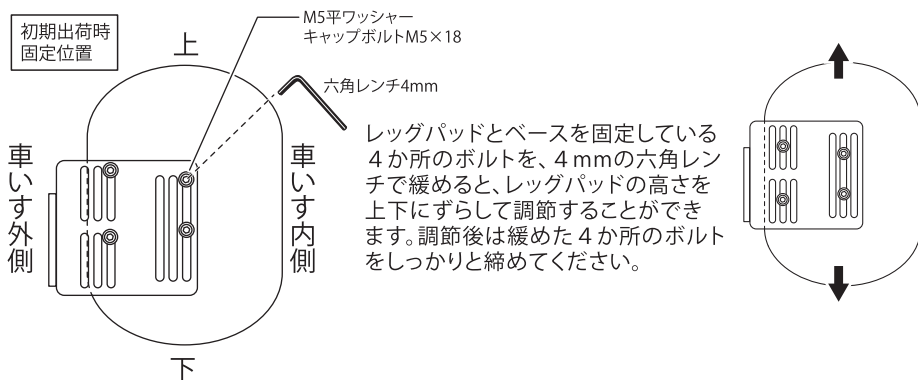


レッグパッド位置の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。

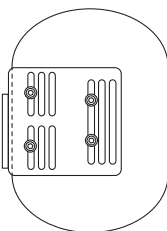


注意

レッグパッド位置の調節は、フット・レッグサポートを車いすから外した状態で行ってください。
また、作業中に各部で手指を挟まないようにご注意ください。



レッグパッドとベースを固定している4か所のボルトを完全にはずしてベースの溝の位置をかえて組付けると、レッグパッドを車いすの外側によせることができます。ワッシャー類は元通りにセットして、ボルトはしっかりと締めてください。



挙上式フット・レッグサポート(オプション)の各部の調節のしかた

レッグパッドベース高さの調節のしかた



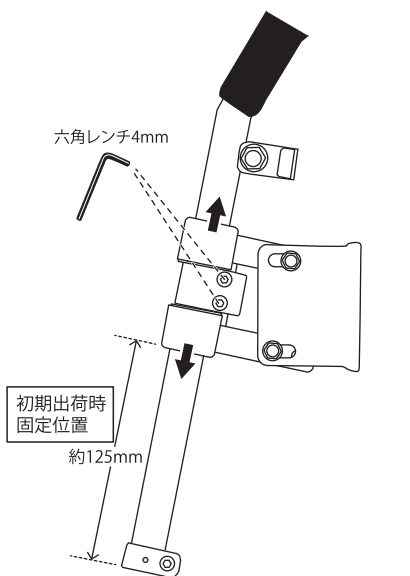
レッグパッドベース高さの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。



注意

レッグパッドベース高さの調節は、フット・レッグサポートを車いすから外した状態で行ってください。

また、作業中に各部で手指を挟まないようにご注意ください。



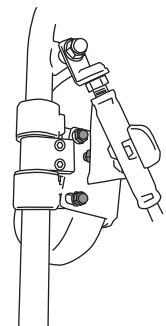
レッグパッドベースをレッグパイプに固定しているクランプの2か所のボルトを、4mmの六角レンチで緩めると、レッグベースの高さを上下にずらして調節することができます。調節後は緩めた2か所のボルトをしっかりと締めてください。



レッグパッドベースの高さを調節したときはナットどうしが当たらないことを確認してください。

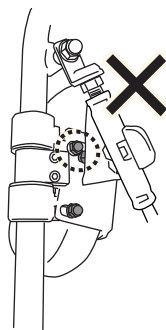
正常に使用できる状態

レッグパイプを引き込んだ状態でもナットが当たらない状態



再調節が必要な状態

レッグパイプを引き込んだときにナット同士が当たってしまう状態



ナットどうしが当たらないようにレッグパッドベースの高さを再調節してください。



レッグパッドベース角度・奥行の調節のしかた

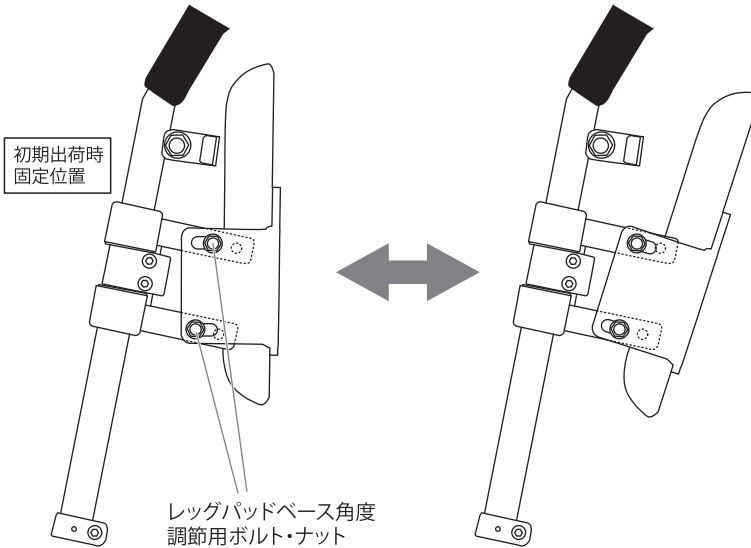


レッグパッドベース角度・奥行の調節につきましては、
専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。



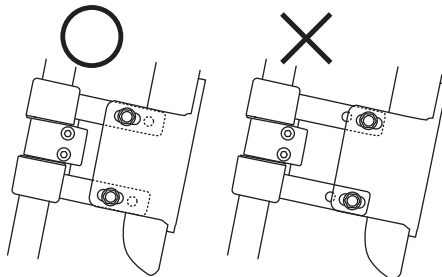
注意

レッグパッドベース角度・奥行の調節は、フット・レッグサポートを車いす
から外した状態で行ってください。
また、作業中に各部で手指を挟まないようにご注意ください。



上図 2 か所のボルトを、4 mmの六角レンチと10mmのスパナで緩めると、レッグパッドベースの角度を調節することができます。調節後は緩めた 2 か所のボルトとナットをしっかりと締めてください。

レッグパッドベース角度調節用ボルト・ナットをはずして穴位置をかえると、レッグパッドベースがレッグサポート取付部にあたり、正常な使用ができなくなります。穴位置は変更しないでください。(下図参照)
調節用ボルトのワッシャー類は元通りにセットし、ボルトとナットはしっかりと締めてください。



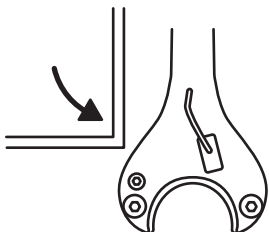
挙上式フット・レッグサポート(オプション)の各部の調節のしかた



レッグパッドベースの調節をしたときは、レッグパッドベースのカドがレッグサポート取付部に当たらないことを確認してください。

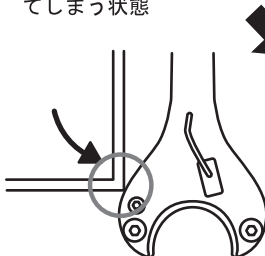
正常に使用できる状態

レッグパッドベースのカドが、レッグサポート取付部に当たらない状態



再調節が必要な状態

レッグパッドベースのカドが、レッグサポート取付部に当たってしまう状態



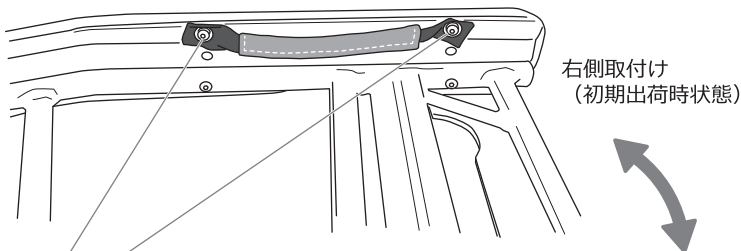
レッグパッドベースのカドが、レッグサポート取付部に当たらないように、レッグパッドベースの角度・奥行を再調節してください。

コントローラーひっかけベルトの左右位置の変更のしかた



コントローラーひっかけベルトの左右位置の変更作業につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。

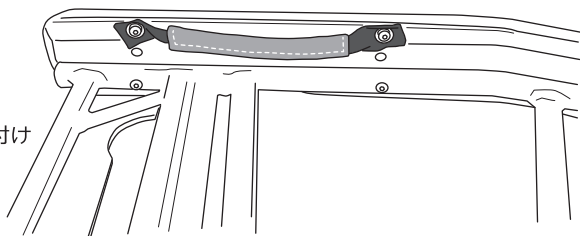
1



右側取付け
(初期出荷時状態)

コントローラーひっかけベルト
固定用ボルト

左側取付け

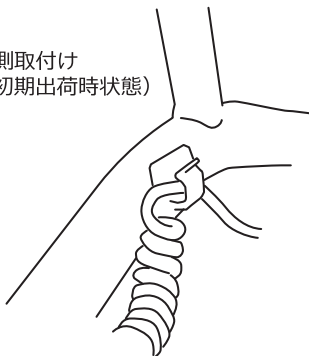


上図2か所のこのコントローラーひっかけベルト固定用ボルトを、3mmの六角レンチで緩めると、ベルトを外し、反対側のアームサポートパッドにつけかえることができます。ボルトのワッシャ類は元の通りにセットし、固定用ボルトはしっかりと締めてください。

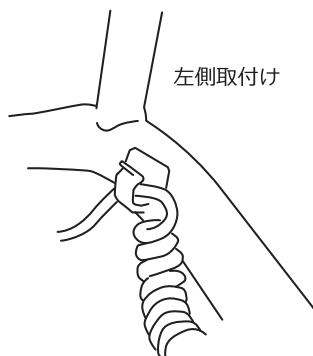
2

コントローラーのコードをとめているベースフレーム前方内側のフックから、コードをはずし、ひっかけベルトと同側のフックにとめなおします。コードを束ねている結束バンドを切って、コードをとめなおし、コードがフレームの下にたれ下がらないようにまとめて、結束バンドで再固定してください。

右側取付け
(初期出荷時状態)

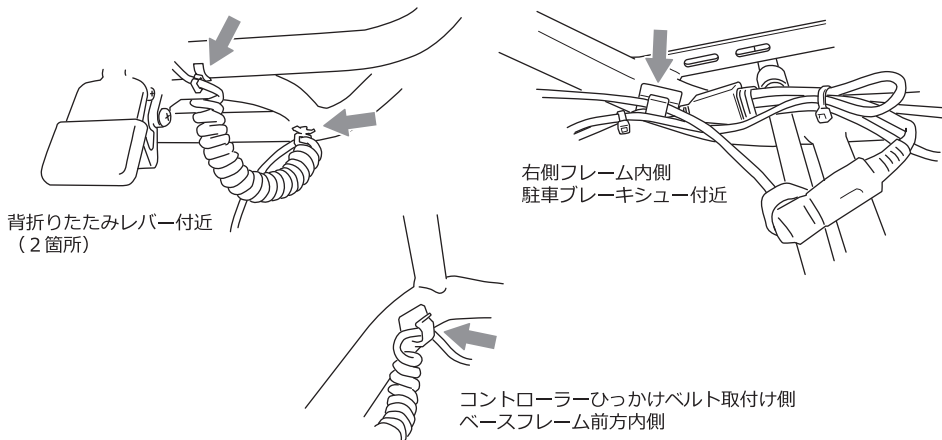


左側取付け

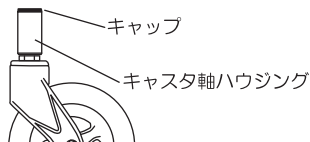


使用前点検(必ず行ってください)

- 介助ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
- 駐車ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
- 左右の転倒防止装置が正しく装着されているかどうかご確認ください。
- ヘッドサポートフレームとヘッドサポートが正しく装着されているかどうかご確認ください。
- ティルト・リクライニングがスムーズに動作するかどうかご確認ください。
- 介助ブレーキのワイヤーの張り具合が適当かどうか点検し、正常に動作するかどうかご確認ください。
- ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかどうかご確認ください。
※特に、駐車ブレーキの取付け部や、車輪軸部は確実に確認してください。
- シート・ベルトに亀裂や破れがないかどうかご確認ください。
- 主輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、ご確認ください。
- 車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかどうかご確認ください。
- 前輪キャスタ輪及びキャスタフォークに変形、ひび割れ等がないかどうかご確認ください。
- 前輪キャスタが緩んでいないか、抜け落ちていないかどうかご確認ください。
- バックサポートのインナーシートとアウターシート、座クッションが正しくしっかりと取付けられているかどうかご確認ください。
- 左右のアームサポートがしっかりと装着されているかどうかご確認ください。
- 各部パーツの変形、破損がないかどうかご確認ください。
- 配線コードがフレームのフックにひっかけられているか、フックがフレームからはずれていないかどうかご確認ください。



- 配線コードがフレームの下側にたれさがっていないかどうか、ご確認ください。
- 配線コードの被膜が傷ついていないか、コードやコネクターの異常がないか確認してください。
- 電動シリンダー部品及びバッテリーボックスからオイルや液体がもれていないか確認してください。
オイルや液体がもれている場合は使用を中止してください。もれているオイルや液体にはふれないでください。(本製品の液が目に入った場合は、水で洗ったあと、早急に医師の診断を受けてください。
失明などのおそれがあります。)
- キャスタ軸ハウジング上端のキャップが、キャスタ軸ハウジングにしっかりとハマっていることを確認してください。キャップが浮いている場合はキャスタフォーク固定ボルトが緩んでいる可能性がありますので、使用を中止し、販売店に点検を依頼してください。



警告

製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調整をご依頼ください。

メンテナンス・保管方法

- ボルトの緩み、フレームのガタなど、目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、日常的に行ってください。
- 各部のメンテナンス（調節・補修・修理・部品交換等）はお買い上げの販売店にご依頼ください。
- 清掃は、布拭きとしてください。電動シリンダー部品の拭きとりには乾いた布を使用してください。フレーム部分の清掃で中性洗剤を使用する際は水でうすめ、布をかたくしぼった状態で汚れを拭きとってください。
- シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
- 屋内の湿気が少ない場所に保管してください。雨に濡れたり、湿気の高いところには保管しないでください。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けてください。



注意・警告

主に製品を使用する前にご注意をいただくことや、メンテナンス等についての注意

- 各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながる場合があります。定期的に取り扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
- フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。(使用中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。)
- 水にぬれた場合、そのままにしておく製品に錆びやカビが出る場合があります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えることがあります。
- 電動シリンダー部品やバッテリーボックスに潤滑剤等の塗布をしないでください。
- 改造や分解はしないでください。
- 当取扱説明書内に記載の寸法や重量の値には、製造の都合上、多少の誤差がありますのでご了承ください

主に製品を使用中・走行中にご注意をいただくこと

- 使用者の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- 身体寸法や身体の方が車いすに合わない場合は使用をしないでください。からだに合わない状態で製品を使用すると、製品の故障や事故、身体への悪影響につながるおそれがあります。
- シートの張り調整が不適切な状態での使用はしないでください。
- 走行時には地面に凹凸や障害物がないか十分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
- 倒れかかるような座り方や、身を乗り出すような座り方はしないでください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 乗車中に大きな前かがみの姿勢をとらないでください。(例:足下や前方にあるものを触ろうとしたり、拾おうとして、前かがみの姿勢にならないようご注意ください)。バランスをくずして車いす及び搭乗者が前方に転倒するおそれがあります。
- 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- エスカレーター及び動く歩道での使用はしないでください。転落、転倒による事故のおそれがあります。
- 公共交通機関で使用する際は、係員の指示に従い、安全に搭乗してください。
- 踏切りを横断の際は、車輪・キャスタ輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。
- 手押しハンドルや各部フレームなどに手荷物等を掛けないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒するおそれがあります。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- 坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 乗車者・介助者とも、車いす使用時には靴をはいてください。はだして車いすを使用しないでください。思わぬケガのおそれがあります。
- ヘッドサポートフレーム及びヘッドサポートを取りつけない状態での使用はしないでください。
- 左右の転倒防止装置を取りつけない状態での使用はしないでください。
- 左右のフット・レッグサポートを取りつけない状態での走行はしないでください。
- 心臓ペースメーカー、生命維持装置や医療機器等の電磁波ノイズに影響を受ける可能性のある装置を使用している方は、本製品を使用しないでください。
- 医師やリハビリテーション専門スタッフ等に本製品の使用が危険と判断された場合は使用しないでください。
- 本体の近くで強力な電波を発する無線機等の機器を使用しないでください。誤作動の原因となる可能性があります。
- 屋内の室温5～40℃の結露・氷結のない環境で使用してください。
- ほこりの多い場所や磁気の強い場所で使用しないでください。



注意・警告

その他にご注意をいただくこと

- フレームの座面下側や、車輪、各部の隙間等に手を入れなください。各部が動いたり、でっぱりに触れたりすると、ケガのおそれがあります。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。(アームサポートやフット・レッグサポート、ヘッドサポート、手押しハンドル、シート、電動シリンダー部品、バッテリーボックス、配線コード等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながるおそれがあります。)
- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
- 子供に操作をさせないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- 体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
- 周辺に小さなお子様がいたときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
- 製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。



ウレタン素材には 寿命 があります。

- クッション性に優れているウレタン素材は、使用頻度にかかわらず経年変化を起こし、割れ、ヒビ、崩れを起こし、破損するおそれがあります。
- 特に通気の悪い場所での長期間の保管は避けてください。
- 割れやヒビ、崩れ等の症状が発生した場合は使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



キャスタ輪
主輪

アームサポート
パッド

など

販売店向け 資料

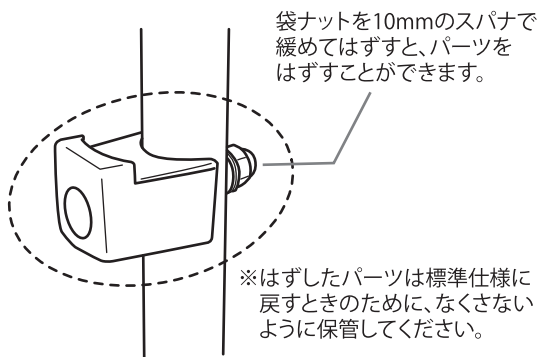
オプション 拳上式フット・レッグ サポートへの変更作業手順説明



拳上式フット・レッグサポートへの変更作業につきましては、
専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。

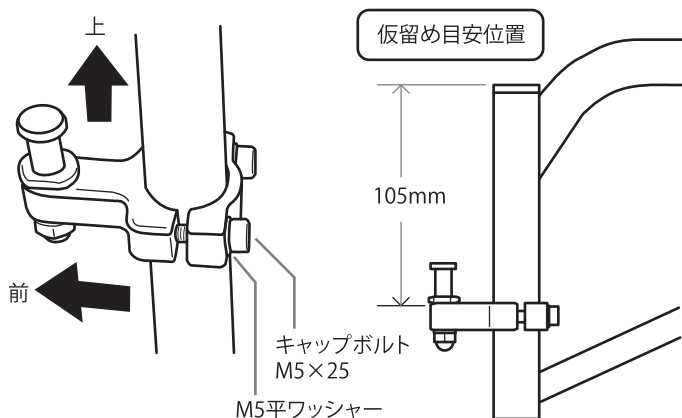
1

標準仕様のフレームから、
標準仕様のフット・レッグサポート
ロック受けパーツ(点線内部)を
はずします。



2

標準仕様のロック受けパーツを外したパイプに、拳上式仕様の
フット・レッグサポートロック受けパーツを仮留めします。
(4mm六角レンチを使用)



3

P 18に記載の動作が正しくできるように、
ロック受けパーツの高さや向きを微調整します。



フット・レッグサポートが下に確実に差し込まれていて、
受けパイプから浮き上がっていない状態にしてください。

開きかた・はずしかた

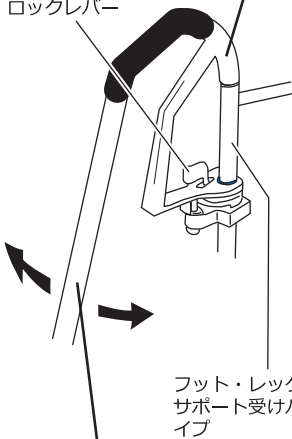
※乗車者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

- ①スイングアウト用ロックレバーを外側へ押しながら、フット・レッグサポートを外側に開きます。
- ②フット・レッグサポートを外側へ45°程度回転させると、フット・レッグサポートを上方に引き抜いて外すことができます。

取り付けかた

- ①フット・レッグサポートを外側に45°程度開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。
- ②フット・レッグサポートを「カチッ」と音がするまで、内側に向けて回転させてください。

スイングアウト用
ロックレバー



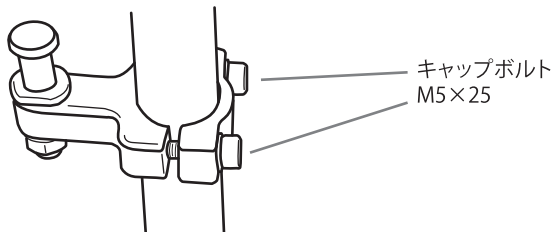
フット・レッグ
サポート受けパイ
プ



フット・レッグサポートがロックされたときに、フット・レッグサポートの
パイプが内側や外側を向かず、まっすぐ前方を向くようにしてください。

4

上記[3]の微調整が完了したら、ロックパーツの
キャップボルトを4mmの六角レンチでしっかりと
締めて固定してください。



キャップボルト
M5×25

目次

P 1	...	各部の名称
P 2	...	NAH-U C・L o 電動仕様／ NAH-U C・H i 電動仕様 付属サービス工具
P 3	...	手押しハンドルの戻しかた（新車購入時に実施してください）
P 4	...	転倒防止装置について
P 5	...	ヘッドサポートフレームの外しかた・取り付けかた・ 高さ調整のしかた
P 6	...	バックサポートアウターシートの取りつりかた
P 8	...	アームサポート高の調整のしかた
P 9	...	車いすの広げかた 車いすの折りたたみかた
P 10	...	駐車ブレーキのかけかた 介助ブレーキのかけかた
P 11	...	ヘッドサポート前後位置の調整のしかた ヘッドサポートの角度・方向の調節のしかた
P 12	...	ティルト・リクライニングの操作方法
P 14	...	充電アダプターの説明 充電のしかた
P 15	...	再充電が必要な場合 充電についての注意事項 バッテリーの仕様
P 16	...	フット・レッグサポート（標準仕様）の開き方・ 着脱のしかた
P 17	...	フットサポートの調節のしかた
P 18	...	拳上式フット・レッグサポート（オプション）の開き方・ 着脱のしかた 拳上式フット・レッグサポート（オプション）の拳上の しかた・下げかた
P 19	...	拳上式フット・レッグサポート（オプション）の各部の 調節のしかた
P 23	...	コントローラーひっかけベルトの左右位置の変更のしかた
P 24	...	使用前点検（必ず行ってください）
P 25	...	メンテナンス・保管方法
P 26	...	注意・警告
P 28	...	販売店向け資料 オプション 拳上式フット・レッグ サポートへの変更作業手順説明
P 30	...	目次
P 31	...	保証規定・品質保証書

保証規定

I. 保証の範囲

1. 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
2. 保証期間はご購入後1年間です。
3. 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
 - (a) 取扱い過誤による故障。
 - (b) 製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含まれます。
 - (c) 天災、地変等による故障ならびに損傷。
 - (d) 消耗部品、タイヤなど。
 - (e) 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
 - (f) 保証書のご提示がない場合。
4. 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
5. この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

II. サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はご購入の販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

III. ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りご購入日より「1年間」無償にて修理致します。

機種			
お客さま	ご住所	〒	
	(フリガナ) 氏名	TEL	
お買い上げ	年	月	日
販売店	まで		
総販	印		
製造元	日進医療器株式会社		
	〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35-2 TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787		

日進医療器株式会社

本 社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現 3 5 番地の 2
TEL<0568>21-0635(代) FAX<0568>23-2787

東京営業所 〒112-0011 東京都文京区千石 2 丁目 2-1
TEL<03>3943-5200(代) FAX<03>3943-5222

大阪営業所 〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里 6-16-10
TEL<06>6323-8265(代) FAX<06>6326-2554

九州営業所 〒812-0876 福岡県福岡市博多区昭南町 2 丁目 3-8
TEL<092>513-5036(代) FAX<092>513-5038

製品の廃棄方法

ご不用となった製品を処分される場合の廃棄方法につきましては、
お住まいの自治体のルールに従ってください。

TRZ-055-02